

イングランドの創造的音楽活動に見る保幼小連携
— EYFS指針とナショナル・カリキュラムの活動例に着目して —

**The transition between preschools and elementary schools through creative
music activities in England
-Focusing on non statutory guidances for EYFS and National Curriculum-**

水谷 いつみ・中村 礼香
Itsumi Mizutani · Ayaka Nakamura

イングランドの創造的音楽活動に見る保幼小連携 — EYFS 指針とナショナル・カリキュラムの活動例に着目して —

The transition between preschools and elementary schools through creative music activities in England -Focusing on non statutory guidances for EYFS and National Curriculum-

水谷 いつみ・中村 礼香^{*1}

Itsumi Mizutani · Ayaka Nakamura

1. はじめに

1990年代に「小1プロブレム」という言葉が使い始められてから、保幼小連携という観点で様々な実践がなされてきた。2017（平成29）年に大幅改訂された幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領においても、保幼小連携に関わる文言が共通して使用されている。例えば、幼稚園教育要領解説の前文では、「家庭との緊密な連携の下、小学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、幼児の自発的な活動としての遊びを通しての総合的な指導をする際に広く活用されるものになることを期待して、ここに幼稚園教育要領を定める。」（『幼稚園教育要領解説』p.12）と述べられている。四童子（2021）は、1999（平成11）年度版から現行版の保育指針における保幼小連携の記述が増えていることから、「保育所と小学校の連携や、円滑な接続への意識が高まっていることがうかがえ」ることを指摘した。依然として保幼小連携に関する具体的方策が求められていることがわかる。

一方、イングランドの就学前教育は、2008年に法定化されたEYFS指針に基づいて実施されている。小学校就学前の1年間をレセプションクラスとし、教育システムレベルで保幼小連携を意識した取り組みを

行っている。

藤掛・北野・三村（2014）は、幼小接続について、アメリカとイギリスのカリキュラムの比較分析を通して検討した。イギリスに関しては、EYFS指針と、学習指導要領にあたるナショナルカリキュラムの学習内容を取り上げている。小松原（2023）は、イギリスの音楽領域の幼小接続について、「音楽的要素や音の知覚・感受を促す視点が0歳児段階から示されていることにより、幼小接続の観点が強く意識されている可能性がある」ことなどを指摘している。

筆者らは先行研究において、イングランドの就学前教育の実践例を示した3つの法定外カリキュラム『発達は大事』『生まれてから5才までは大事』『幼児期の音楽的発達は大事』より、創造的音楽活動を抽出した。小学校教育はナショナルカリキュラムに基づいて行われており、イングランドの教育省はそれに沿った実践例を示した『モデルミュージックカリキュラム（Model Music Curriculum）』を発行しているが、これを比較対象とした研究はまだ見られない。

そこで、本研究では就学前教育の3つの法定外カリキュラムとモデルミュージックカリキュラム低学年の創造的音楽活動の実践例を抽出、比較し、わが国の音楽を通した保幼小連携実践の一助となるものがないかを探ることとする。

なお、本研究において対象としているのはイギリス（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）ではなく、イングランドであることを付け加えておく。

^{*1} 鹿児島女子短期大学

2. イングランドのナショナル・カリキュラム

2-1. ナショナル・カリキュラムの概要

1988年、イングランドではサッチャー政権のもとで教育改革法（Education Reform Act）が制定され、1992年に法的拘束力をもつ全国共通のナショナル・カリキュラムが導入された。1995年、1999年を含む幾度かの改訂が重ねられたのち、2014年版の現行カリキュラムに至った。「3-2ねらい」に「本カリキュラムは核となる知識の概要を示しており、学校の教育課程の一部として、教師はこれを、子どもの知識、理解、スキルの発達を促進するための楽しく刺激のある授業に発展させる」（日本語訳は水谷）と記されており、カリキュラムの立ち位置が示されている。中心科目に英語、算数、理科、基礎科目に美術、公民、技術、情報、外国語、地理、歴史、音楽、体育が設定されている。ただしキーステージ1に公民と外国語は含まれない。

イングランドでは5歳から11歳までが初等教育段階であり、1年生と2年生がキーステージ1、3年生から6年生はキーステージ2となっている。7年生以降は中等教育にあたるため、以下の表1では6年生までを示す。

表1 イギリスにおける学年とキーステージ

年齢	学年	キーステージ	段階
3-4			早期段階
4-5	レセプション		
5-6	1年生	キーステージ1	初等教育
6-7	2年生		
7-8	3年生	キーステージ2	
8-9	4年生		
9-10	5年生		
10-11	6年生		

レセプションクラスとは、小学校就学前の1年間、主に小学校に併設された施設等でフルタイムを過ごす制度である。1年の終わりにはEYFSプロフィールと呼ばれるものを作成し、小学校へ提供するなど、保幼小連携を意識した制度であるといえる。2023年に「イングランドにおける効率的なレセプションクラスの経済的な利益についての研究結果（The economic

benefits of effective Reception classes in England）」を発表するなど、政府がレセプションクラスに一定の効果を感じ、力を入れていることが分かる。

2-2. ナショナル・カリキュラムにおける初等音楽について

先述の通り、このカリキュラムはあくまでも知識の概要を示したものであり、具体的に授業で実践する内容は記載せず、学習の目的と、各ステージにおける達成目標が書かれているのみである。音楽の初等教育に関する内容は表2のようになっている（日本語訳は中村）。なお、到達目標については「各キーステージの修了までに、児童は本学習プログラムに定める事項、技能、過程を知り、生かし、理解することが期待される」と述べられている。

2-3. モデルミュージックカリキュラムの概要

『モデルミュージックカリキュラム』（Model Music Curriculum: Key Stages 1to3）（以下MMC）は教育省が発行する法定外ガイダンスで、ナショナルカリキュラム（音楽）を補完するものである。カリキュラムをどのように提供できるかモデルを示すことで、教師が指導に取り組むための足がかりを提供しており、カリキュラムの法定要件を満たすことができる実践的な枠組みを提供している。

MMCは、歌唱、鑑賞、作曲、演奏の4つの主要領域における学習の順序を定めている。また、付録として、音楽の聴き方、音楽用語の意味、演奏、作曲がどのように結びついているかを示すためのアプローチも提案されている。内容は、キーステージごとに、歌唱、鑑賞、作曲、演奏のそれぞれの領域に分けて示されている。本稿においては、創造的音楽学習に繋がる「作曲（Composing）」と、キーステージ1のみに記載されている「音楽性（Musicianship）」の分野に注目して、内容を見ていく。なお、本稿は保幼小連携に着目した研究のため、キーステージ1のみを取り上げる。

表2 イングランドの音楽学習の目標

目的	音楽のナショナル・カリキュラムは、すべての生徒が以下のことを確実に身につけることを目標としている。 <ul style="list-style-type: none"> 偉大な作曲家や音楽家の作品を含め、様々な歴史的時代、ジャンル、スタイル、伝統に渡る音楽を演奏し、聴き、レビューし、評価する。 歌うこと、声を使うこと、自分で、あるいは他の人と一緒に音楽を創作・作曲すること、楽器を学ぶ機会をもつこと、テクノロジーを適切に使用すること、そして優れた音楽の次のレベルに進む機会をもつことを学ぶ。 音楽がどのように創造され、生み出され、伝達されるかを、相互に関連する特徴（音程、音の長さ、強弱、テンポ、音色、音の構造、楽譜等）を通して理解し、探求する。
キーステージ1の達成目標	生徒には次のことを教えるべきである <ul style="list-style-type: none"> 歌を歌ったり、チャンツや韻を踏んだりすることで、表現力豊かに創造的に声を使う。 調律された楽器と調律されていない楽器を音楽的に演奏する。 様々な質の高い生演奏や録音された音楽を、集中して理解しながら聴くことができる。 音楽の相互に関連する特徴を使って、音楽を試作し、創造し、選択し、組み合わせる。
キーステージ2の達成目標	生徒は、自信とコントロール力を高めながら、音楽的に歌い演奏することを学ぶ。作曲の理解を深め、音楽構造の中でアイデアを整理し、操作し、聴覚の記憶から音を再現する。生徒には次のことを教えるべきである。 <ul style="list-style-type: none"> 正確さ、流暢さ、コントロール力、表現力を高めながら、声を使い、楽器を演奏し、ソロやアンサンブルで演奏する。 音楽の相互関連性を利用して、様々な目的のために即興演奏や作曲ができる。 音を細部まで注意深く聴き、聴覚的な記憶力を高めて音を思い出す。 五線譜やその他の楽譜を使用し、理解する。 さまざまな伝統や偉大な作曲家、音楽家による質の高い生演奏や録音された音楽を幅広く鑑賞し、理解する。 音楽の歴史についての理解を深める。

3. 「モデルミュージックカリキュラム」と幼児教育における法定外ガイダンスの内容との比較

3-1. 幼児教育における法定外ガイダンスについて

小学校教育のナショナルカリキュラムに当たる幼児教育のEYFS指針の活動例を示した法定外ガイダンスはいくつか存在する。ここでは3つ取り上げる。1つ目は教育省が公表している『発達は大事』(Development Matters)、2つ目は幼児教育連合が公表している『生まれてから5歳までは大事』(Birth to 5 Matters)、3つ目は英国幼児教育協会が公表している『幼児期の音楽的発達は大事』(Music Development Matters in the Early Years)である。

本研究では、上記の3つの内容から、就学直前の4～5歳の子どもたちの活動内容を取り上げ、MMCのキーステージ1の内容を比較することとする。

3-2. 各法定外ガイダンスの創造的音楽学習に関する内容について

『発達は大事』、『生まれてから5歳までは大事』、『幼児期の音楽的発達は大事』の4～5歳の創造的音楽学習に関する内容を取り出して表3、4、5にまとめる(『発達は大事』、『生まれてから5歳までは大事』「キーステージ」の日本語訳は中村、『幼児期の音楽的発達は大事』の日本語訳は水谷)。また、各活動の要素・キーワードを抽出する。

表3 幼児期の創作的音楽活動(『発達は大事』)

『発達は大事』の活動	活動の要素・キーワード
① 英国の伝統音楽や民族音楽など様々な種類の音楽を紹介し、新しい音楽の世界へ興味をもたせる。	伝統音楽、聴取
② 音楽家を招いて演奏してもらい話す。	聴取、鑑賞
③ 注意深く音楽を聞くよう促し、音楽の進行にそった変化やパターンを話し合う。	聴取、話し合い、音楽進行
④ パントマイムや舞台、音楽やダンスの生のパフォーマンスを見る機会を与える。	鑑賞
⑤ ハミングやマネをする短いフレーズを歌い、ピッチを合わせるゲームをする。	ハミング、模倣、歌唱、ピッチ

『発達は大事』の活動	活動の要素・キーワード
⑥ 歌詞ありもしくはなしの歌を使う。子どもは“バ”のような音だとより容易にピッチを合わせられるだろう。	歌唱、ピッチ
⑦ 子どもが先生の歌のフレーズをエコーできるように、呼びかけと応答の歌を歌う。	呼びかけと応答、歌唱、模倣
⑧ 音楽に合わせて歌ったり、膝を叩いたり、踊ったり、楽器や音が出るものを用いて自分の音楽をつくったりしながら、一定のビートを保つよう促す。	聴取、身体表現、楽器演奏、創作、ビート
⑨ 様々な動きに対する様々な音を使った、動きと聴き取りのゲームをする。(例：太鼓の音に合わせて行進する、マラカスの音に合わせてゆっくり動く)	聴取、身体表現、即時反応
⑩ 自分の名前や物・動物の名前や歌の歌詞の音節に合わせて手を叩くなど、言葉に合わせてリズムを叩く	言葉を音楽に、音節、リズム、言葉に合わせてリズム打ち
⑪ 拍のある音楽を演奏しタイミングに合わせ、変化に反応して動くよう促す。(例：音楽が突然大きくなるとジャンプする)	拍、聴取、身体表現、即時反応
⑫ 自分の音楽をつくるよう促す。	音楽創作
⑬ ポップ曲や世界の伝統舞踊などダンスの振り付けを真似るよう促す。	ポップ曲、伝統舞踊、模倣、ダンス

表4 幼児期の創作的音楽活動（『生まれてから5才までは大事』）

『生まれてから5才までは大事』の活動	活動の要素・キーワード
① 創造的に音と遊ぶ、歌っている曲や聴いている音楽のビートに合わせて演奏するなど、様々な方法で音楽を制作する	音遊び、ビート、音楽創作
② 動き、音楽、ダンス、演劇、視覚芸術など様々な芸術を用いて、自分の考えや感情を表現し、人とコミュニケーションをとる	様々な芸術、自分の考えや感情を表現、コミュニケーション
③ 個別または小さなグループや大きなグループをつくり、子どもが取り掛かっている作業を説明するよう定期的に促す	グループ、作業の説明
④ 自分のイメージを表現するために、楽器や音、色、素材などを選択する	イメージを表現する、素材選択
⑤ この音楽は恐竜のように聴こえるなど芸術作品から想像力を働かせる	想像力、音楽とイメージ
⑥ 保育者は、子どもたちの想像力を豊かにできるように、素材、物、自然物、画像、音楽、ダンスなどの経験をさせる	想像力、様々な経験

表5 幼児期の創作的音楽活動（『幼児期の音楽的発達は大事』）

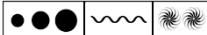
『幼児期の音楽的発達は大事』の活動	活動の要素・キーワード
① 例えば海辺、ジャングルなど、テーマに沿って音楽をつくる。	テーマ、音楽創作
② 録音機器を使って音を見つけ録音する。	録音、ICT
③ 例えば、音楽の静かな部分で静かに演奏し、音楽が止まったら演奏を止めるというように、音楽の構造に合う楽器（エアギターなどの想像上のものを含む）を演奏する。	聴取、楽器演奏
④ 楽器を演奏するときに一定のビートを保つ。自分のつくった音楽で自分の一定のビートを演奏する。	楽器演奏、ビート、音楽創作
⑤ 名前や物、動物、歌詞の音節などの言葉に合わせてリズムを叩く。	言葉に合わせてリズム打ち
⑥ 楽器やボディーパーカッションでリズムをつくる。	楽器演奏、ボディーパーカッション、リズム創作
⑦ 歌っている歌や聴いている歌のビートに合わせて演奏する。	ビート、演奏
⑧ 1つ1つ楽器を演奏するよう勧め、他の子には注意深く聴くように言い、どのような音が説明させたり、聴きながら楽器ごとの音に合わせて動くように言ったりする。	楽器演奏、聴取、説明する、身体表現、即時反応
⑨ 例えば、タンブリンは円、チャイムバーは長方形など、楽器を表す形を考える。子どもはその形の視覚的パターンをつくり出し、自分や他の子どもたち、大人が演奏する。	楽器を形にする、視覚的パターンの創作、楽器演奏
⑩ 楽器の音を描く。一つの音の作成ができたなら、他の音を取り入れ描かせる。保育者はその中から子どもの代表的なものを真似し、視覚的なパターンをつくり、それを子どもに演奏するよう促す。	音を描く、視覚的パターンの創作、演奏
⑪ 可能な場合は子どもの曲を録音し、それを演奏し返して保育者の音楽に子どもの音楽を入れてみる。音楽は目に見えないもので、よく捉え録音しなければわからなくなってしまう。	録音、音楽の融合

3-3. 幼児期の活動と MMC の活動との関連について

次に、MMC キーステージ 1（1年生と2年生）の創造的音楽活動を挙げる。領域「作曲」の活動と、「音

楽性」の中から創作活動を抜粋し（日本語訳は中村。）、活動の要素とキーワードを記した(表6、表7)。また、幼児期の活動（表3、4、5）の中で関連の認められたものを示す。

表6 MMC1年生の活動と幼児期の活動の関連

MMC の創作活動	活動の要素・キーワード	幼児期の活動との関連		
		DM	B5M	MDM
① 質問と答えのフレーズを使って、簡単なヴォーカル・チャンツを即興でつくる。	質問と答え、歌の創作、即興	⑤⑥⑦ ⑩⑫	①	⑤
② 暴風雨や列車の旅などのイメージに対して効果音や短い音の進行をつくる。レインスティックのような教室の楽器や木の葉のざわめきのような音を出すものを選び、音を出し、組み合わせて物語をつくる。	イメージと音をつなげる、音の進行の創作、音を組み合わせる、物語をつくる	⑫	①④⑤ ⑥	①
③ リズムパターンとピッチパターンの違いを理解する。	リズム、ピッチ	⑤⑥⑩		⑤⑥
④ リズムとピッチのパターンをつくり、保持、記憶し、他の子に向かって交互に演奏する。	リズムの創作、ピッチの創作、記憶保持、人前で演奏	⑤⑥⑩ ⑫		⑤⑥
⑤ 利用可能であれば、音楽テクノロジーを使って、音を取り込んだり、変化させたり、組み合わせたりする。	ICT、音の試行錯誤			②⑪
⑥ 図形楽譜でどのように創造された音を表現できるかを認識する。独自の記号を探求し、作り出す。 例： 	音を視覚化する、図形楽譜の創作			⑨⑩
⑦ 単語パターンのチャンツ（例：ca-ter-pil-lar crawl, fish and chips）で、自分のリズムパターンを創り、演奏する。	言葉をリズムにする、リズム創作	⑩⑫		⑤⑥
⑧ 物語を盛り上げる打楽器音を探す。（例：木琴の音を上昇させ豆の木を登るジャックを暗示する、シャワーを表現するために、レインスティックやシェイカーで静かな音を出す、威嚇的な足音を再現するため、ドラムで規則的に強いビートを刻む）	イメージと音をつなげる、楽器、音の創作	⑫	①④⑤ ⑥	①⑧

※ DM= 発達は大変、B5M= 生まれてから5才までは大変、MDM= 幼児期の音楽的発達は大変

表7 MMC2年生の活動と幼児期の活動の関連

MMC の創作活動	活動の要素・キーワード	幼児期の活動との関連		
		DM	B5M	MDM
① 嵐、カーレース、ロケット打ち上げなど音楽的ではない音を用いて音楽を創作する	音による創作	⑫	①④⑤	①
② パートナーと協力して、簡単な質問と答えのフレーズを即興でつくり、歌い、チューニングされていないパーカッションで演奏し、音楽的な会話を作り上げる。	ペアワーク、質問と答え、フレーズの創作、歌、打楽器演奏、音楽的な会話	⑦⑫	①②	⑥
③ 適宜、図形記号、点記譜法、棒記譜法を用いて、作曲した曲を記録する。	記譜（図形、点、棒）			⑨⑩
④ 利用可能であれば、音楽テクノロジーを使って、音を取り込み、変化させたり、組み合わせたりする。	ICT、音の試行錯誤			②⑪
⑤ リーダーを模倣したり、他の人が模倣できるようリズムを考案したりして、模倣リズムを演奏する。	模倣、リズム創作	⑤⑦⑩ ⑫		⑤⑥
⑥ 単語のフレーズを出発点としてリズムをつくる。（例：Hel-lo Si-mon や Can you come and play）	言葉によるリズム創作	⑩⑫		⑤⑥
⑦ 自分たちのリズムパターンをつくり、演奏する。	リズム創作、演奏	⑩⑫		⑤⑥

MMC 1年生について、幼児期のガイダンス3つとも関連性が認められた活動にみられるキーワード・要素は、「イメージと音（楽）・物語、音の（進行の）創作、歌、（簡単な）歌の創作、素材や音の選択」である。ガイダンスの2つに関連がみられた活動に関するキーワード・要素は「リズム、ピッチ、言葉に合わせたリズム打ち、リズム創作」である。MMC 2年生について、3つに関連が認められた活動に関しては「音（楽）創作、イメージと音（楽）、想像力、テーマ、呼びかけと応答（質問と答え）、音遊び、（音楽による）コミュニケーション」、2つに関連が認められた活動に関しては「模倣、リズム打ち、リズム創作、言葉に合わせたリズム」であった。

特に今回取り上げた幼児教育における3つの法定外ガイダンスのうち、『幼児期の音楽的発達は大』(Music Development Matters in the Early Years)は音楽に特化した保育の実践ガイドということもあり、MMCの創作活動に関する内容と最も関連していた。

4. 考察とまとめ

ここまでイングランドの幼児教育向けのガイダンスと小学校音楽科向けのガイダンスの創造的音楽活動の内容を比較してきた。

まずはMMC 1年生について述べたい。幼児期から1年生に連携が認められた創造的音楽活動として、素材や音の選択、音（や音の進行）の創作、（簡単な）歌の創作、リズム創作があった。それらを裏付ける要素として、歌うこと、イメージと音（楽）・物語を結びつけること、リズム・ピッチなどの音楽的要素、言葉（や音節）とリズムが挙げられた。

MMC 2年生は、幼児期から2年生に連携が認められた創造的音楽活動として、音（楽）創作、音あそび、（音楽による）コミュニケーション、模倣、リズム創作があった。裏付ける要素として、イメージと音（楽）、想像力、テーマ、呼びかけと応答（質問と答え）、リズム打ち、言葉（音節）とリズムが挙げられた。

幼児期からキーステージ1までは打楽器を中心とした音楽づくりが主流であり大きく内容の難易度が上がっておらず、保幼小連携を意識して作成されたことがわかる。イメージと音楽、言葉と音楽、模倣など、

幼児期の活動から発展している活動も多いが、呼びかけと応答、ビート、リズム、ピッチなど、ところどころ音楽の諸要素も含まれている。図形楽譜やICT活用が含まれていることは小学校の活動の特徴である。

わが国の小学校学習指導要領解説音楽編の中で、第1学年及び第2学年の目標と内容の「音楽づくり」に関する項目を見てみると、「音遊び」「リズムの模倣」、「言葉を唱え、そのリズムを打つ」「言葉の抑揚を短い旋律にして歌う」「反復」「呼びかけとこたえ」「即興的に音を選んだり繋げたりして表現する」といった言葉が記載されていて、MMCの内容と類似していることがわかる。ただし、器楽の活動に関しては、「イ 第1学年及び第2学年で取り上げる旋律楽器は、オルガン、鍵盤ハーモニカなどの中から児童や学校の実態を考慮して選択すること。」「ア 各学年で取り上げる打楽器は、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて、演奏の効果、児童や学校の実態を考慮して選択すること。」と示されており、旋律楽器を取り入れることが推奨されていて、そこはイングランドのMMCとは異なるところである。

日本においても保幼小連携はよく言われているが、少なくとも音楽活動において小学校教員が幼児教育において行っている内容を理解しているわけではない。また、逆に保育者が小学校進学後の音楽教育を想定して音楽活動を行っているわけでもない。イングランドにおいては、具体的な活動内容が法定外ガイダンスであっても国のホームページで紹介されており、ある程度の方向性が示されているため、保幼小連携が日本より行いやすくなっている。前述のように、特に音楽づくりに関しては日本の小学校1、2年生の音楽の授業に求められている内容とイングランドのMMCの内容は類似しており、また前回筆者らが執筆した論文において、幼稚園教育要領等とイングランドのそれにあたるEYFS指針の目指している幼児の姿や保育活動の内容も類似していることを示した。このことから、イングランドのガイダンスが、音楽教育における保幼小連携のカリキュラム開発の参考になるのではないかと考えている。

参考文献

- ・ Department for Education (2013), Music programmes of study: key stages 1 and 2 National curriculum in England, https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/239037/PRIMARY_national_curriculum_-_Music.pdf.
- ・ Department for Education (2021), Model Music Curriculum: Key Stages 1 to 3 Non-statutory guidance for the national curriculum in England, https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/974366/Model_Music_Curriculum_Full.pdf.
- ・ Department for Education (2021), Statutory framework for early years foundation stage, https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/974907/EYFS_framework_-_March_2021.pdf.
- ・ Department for Education (2021), Development Matters Non-statutory curriculum guidance for the early years foundation stage, https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/1007446/6.7534_DfE_Development_Matters_Report_and_illustrations_web__2_.pdf.
- ・ Department for Education (2023), 'The economic benefits of effective Reception classes in England', https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/1131271/Economic_benefits_of_effective_Reception_classes_FINAL.pdf.
- ・ The British Association for Early Childhood Education (2018), Musical Development Matters in the Early Years, <https://early-education.org.uk/wp-content/uploads/2021/12/Musical-Development-Matters-ONLINE.pdf>.
- ・ The Early Years Coalition (2021), Birth to 5 Matters, <https://birthto5matters.org.uk/wp-content/uploads/2021/04/Birthto5Matters-download.pdf>.
- ・ 小松原祥子 (2023) 「イギリスの就学前・初等音楽教育における音楽の諸要素を軸とした指導法—EYFS2021とMNCに基づいた教科書分析—」神戸女子短期大学論叢第68巻 pp.13-24.
- ・ 四童子裕 (2021) 「保幼小の接続と音楽教育の変遷：保育所保育指針と幼稚園教育要領・小学校学習指導要領の比較から」中村学園大学発達支援センター研究紀要第12号 pp.15-24.
- ・ 中村礼香・水谷いつみ (2023) 「幼児教育における創造的音楽学習に関する研究—イングランドのEYFS指針及び実践例に着目して—」鹿児島女子短期大学「紀要」第60号 pp.71-78.
- ・ 藤掛絢子・北野幸子・三村真弓 (2014) 「音楽領域における幼小接続カリキュラムの検討—イギリスとアメリカの比較を中心に—」国際幼児教育研究21巻 pp.17-25.
- ・ 文部科学省 (2019) 『幼稚園教育要領解説』
- ・ 文部科学省 (2019) 『小学校学習要領解説 音楽編』

